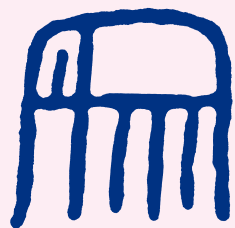


2024.2 NO.78

同窓會報



〒600-8206 京都市下京区下之町 57-1
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 望月 重延
TEL/FAX 075-585-2093
携帯 090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail office@kyogei-ob.jp

新キャンパスへの移転完了

2023年10月1日、本学は京都駅東地域に完成した新校舎に移転しました。2014年に京都市が本学の移転整備の方針を発表して10年、念願が現実となり10月1日に移転オープニングセレモニーが京都市との共催でキャンパス内の堀場信吉記念ホールで開催されました。併せて4月にオープンした美術工芸高等学校の移転セレモニーを兼ねたものでした。約600名の関係者が招かれ、同窓会象の会からも正副会長、代表幹事が出席しお祝しました。

大学は、移転を機に未来に向けた新たな大学像を「TERRACE」と定め、地域の歴史や文化と緩やかにつながって新たな「創造の現場」となり、様々な人々や機関との交流を通じ、その刺激や情報を作品や研究に昇華させ、活発な芸術の拠点になることを目指すとしています。

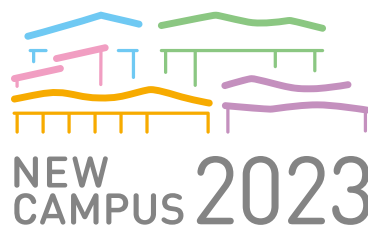


京都芸大「作品展2023」の開催

2024年2月7日(水)～11日(日) 10:00～18:00

大学(新キャンパス)を会場に学部・院で学ぶ全学生の作品を展示しています。(京都市京セラ美術館での展示はありません) 新キャンパスの見学も兼ねて是非ともお運びください。

セレモニーでは、主催者の門川市長、赤松学長のあいさつに続き彬子女王殿下、西脇府知事など来賓の祝辞、音楽学部の記念演奏などが披露され、その後「芸大通り」でテープカット、崇仁子ども御雛子会による御雛子の実演、崇仁連合会長のあいさつでお開きとなり、最後に新キャンパス内の主な施設を見学しました。



Head line

新キャンパスへの移転完了.....	1
移転整備募金の状況.....	4
新たな「同窓会室」紹介.....	4
新任あいさつ.....	5
退任あいさつ.....	5
芸大祭2023 「象の店」顛末記	7
芸大祭2023 「京都市立芸同窓会美術公開講座」 開催報告	8

芸大祭2023 新キャンパス見学ツアーの開催	8
Relay Talk 象の会・いろあわせ ⑩.....	9
学内消息(資料).....	10
会員展覧会.....	10
事務局だより.....	12
編集後記.....	12



新キャンパス外観



堀場信吉記念ホールへと続く大階段



事務局・油画専攻・日本画専攻が入るD棟



大学のメインストリート「芸大通」



音楽学部が入るB棟



新キャンパスのサイン



堀場信吉記念ホール



伊藤記念図書館



畳敷きで小上がりのある「講義室12」



だれでも気軽に立ち寄れる「カフェ・commons」



日本伝統音楽研究センター図書室



屋上グラウンド



交流スペースで行われた総合デザイン専攻の展示

移転整備募金の状況 <同窓会(象の会)で約4,000万円>

制作機器や楽器の購入・更新など教育研究環境の充実に必要となる費用を募る「移転整備募金」も、令和2(2020)年12月の取組開始から丸3年が経過いたしました。

令和5年12月末までにお寄せいただいた寄付金の総額は約12億8千万円ですが、そのうち象の会の皆様からのご寄付は、昨年1月に企画いただいたアートオークションの収益金1420万円を含めて4000万円にも上ります。この場をお借りしまして皆様か

らの温かいご支援に改めて感謝申し上げる次第です。

さりながら、皆様からの格別なご厚情をいただきながらも目標に掲げました15億円には達しておらず、予算的な問題から新キャンパスの施設等の整備は未だ完了できていないのが実情です。「移転整備募金」は引き続き本年3月末まで受け付けておりますので、象の会の皆様にはかねてから多大なるご支援を賜っているところではございますが、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(移転準備室)



共有工房(立体)



共有工房(PCルーム)



芸術資源研究センター



彫刻専攻と陶磁器専攻の合同授業

新たな「同窓会室」紹介

昨年10月1日の大学移転に伴い、同窓会室(美術・音楽)も新たな装いで学内へ移転オープンしました。場所はD棟の2階、東北隅の208号室です。

面積は40平方メートル(7.5m×5.4m)で、隣接して15.7平方メートル(6.3m×2.5m)の倉庫があります。大学移転の構想が発表された10年前から美術・音楽両同窓会では一定の広さ(70平方メートル)を持つ同窓会室の確保を目指し話し合いを持ってきました。この間、大学にも誠意をもって対応いただき、同窓会として満足できる新たな同窓会室を確保することが出来ました。杳掛の同窓会室と比べると面積、採光、設備ともに雲泥の差です。

部屋には冷蔵庫、湯沸かしポット、湯茶セット、長机7卓、パイ

プ椅子12脚以上があり、12～16人程度の会議・集会が可能です。

電話：075-585-2093



新任あいさつ (2023年10月)

総合デザイン研究室(環境デザイン) 特任講師(建築設計)

土井 亘(どい わたる)



建築設計や施工、アートプロジェクトなどを主体としたドットアーキテクトの一員として活動している土井亘と申します。本学には2017年度より非常勤講師としてお世話になっておりましたが、本年度10月より特任という形で、キャンパス移転と同じタイミングで赴任することとなりました。気持ち新たに尽力していく所存です。

普段は建築設計として図面やデザイン画を描くだけでなく、自身でその画を元に実際に現場で施工や制作に携わる機会も多くあります。学生の皆様とは机上の画に留まることなく、具体的に空間を作り上げる部分までと一緒に学び実践していきたいと思っています。

どうぞ宜しくお願い致します。

共通教育研究室(哲学) 講師

戸澤 幸作(とざわ こうさく)



皆さま、はじめまして。共通教育(哲学)講師の戸澤幸作と申します。伝統ある京都市立芸術大学のスタッフの一員に加えていただけたことを、大変光栄に感じております。

私はこれまで20世紀後半のフランス哲学、とりわけジル・ドゥルーズという哲学者の思想を勉強してきました。そういうわけで、私の専門分野は必ずしも芸術と直接関係するものではありません。とはいえ、もともとは学芸員になりたいと思って美術史学を勉強していました。でも、

芸術ともっと別の仕方でも向き合いたいとの思いに抗えず、修士課程の時に思いきって哲学に鞍替えしました。それから、あっという間に時は過ぎていきました。

今、こうしてここにたどり着いたことに、不思議な運命の導きを感じます。そして、またここからはじまるんだ！とわくわくしています。若き芸術家である学生のみなさんと共に、様々なことに挑戦していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

退任あいさつ (2024年3月)

油画研究室 教授

石原 友明(いしはら ともあき)



25年間過ごした京都芸大を去る時がきました。本当にお世話になりました。学生時代から考えれば、東山、杢掛、崇仁と三つのキャンパスと、デザイン、構想設計、油画という三つの専攻を渡り歩いてきたことになります。他の大学ではなかなか起こり得ない経験で、その意味でも「京芸っぽい」横断的な経験をさせてもらったのでは?と思っています。そのおかげで、多くの先生や学生たちとの出会いに恵まれて、なんとかここまで漕ぎ着けることができました。

助けていただいた多くの教職員の方々、とりわけ油画専攻と芸術資源研究センターの皆さんには感謝してもしきれないほどです。

これから、まっさらな新学舎が、使い込まれて変化してゆくことで新しい場が創られてゆくことを楽しみに想像しています。世界が壊れてゆく中でも弛まず創造を続けること、それ自体がひとつの希望です。これからも、どうかいい旅を続けてください。

陶磁器研究室 教授

重松 あゆみ(しげまつ あゆみ)



京芸卒業後約20年を経て2002年に着任してから約20年が経ちました。杢掛学舎の大きくなった木々や池のほとりのドウダンツツジのみごとな紅葉を今年は見ることができませんでしたが、退任前に移転後の新たな景色を数か月でも堪能できてラッキーです。

私の芸大教員生活の中で思い出深いのは、総合基礎とテーマ演習の授業で他専攻の先生方と試みた数々の授業です。赴任して間もない頃応援教員として訳の分からないまま参加した総合基礎。野村仁先生の「ふる

わせる」という課題での根源的で普遍的な物事へのアプローチに試行錯誤する授業は楽しく、京芸の学生だからこそ成立するものでした。学生のきまじめさと柔軟さ、突飛さは、テーマ演習の「奥行の感覚」と「抽象のしくみ」の課題設定でも発揮され、他専攻の先生方や学生と一緒に研究することの楽しさを享受してきた時間は、私にとって大切なものとなりました。長年にわたり京芸で過ごせたことに感謝いたします。

構想設計研究室 教授

高橋 悟 (たかはし さとる)



京芸に着任したのは2008年。それほど長い時間ではありせんでしたが、振り返ると、大きな流れの中で過ごしてきたように感じています。大学法人化、140周年記念「生存のエシックス」、PARASOPHIA:京都国際現代芸術祭、文化庁事業、大学移転構想などです。考えながら話し、走りながら考える、熟慮が足りないまま動き出す、伝え・共有する姿勢が欠ける。結果、困惑的なトラブルメー

カーになりがちでした。にもかかわらず、同僚の教員、職員の皆さんは、いつも誠実にサポートしてくださいました。外国生活で染み付いてしまったガードを下げるできない私ですが、度量の大きい京芸という時場に心から感謝しています。

総合デザイン研究室 教授 (ビジュアルコミュニケーションデザイン)

辰巳 明久 (たつみ あきひさ)



1997年4月に着任し、1999年からフランス、イタリア、スペイン、ドイツ、アメリカの各大学とイラストレーションの共同授業を始めました。2000年代前半には、フランス美術館研究修復センター(C2RMF)とデジタルアーカイブに関する共同研究に取り組みました。2013年からは、京都大学や大阪大学と医療をテーマにした共同授業、共同研究を行ってきました。在籍した27年間を振り返ると、光陰矢の如しといった感があります。

4月より、大阪大学医学研究科および大阪工業大学知

的財産学部において、デザインの教育研究に携わる予定です。また、両校でデザインした製品やサービスを社会実装するために設立するNPO法人の理事、ならびにヘルスケア事業を展開するスタートアップ企業のブランド担当役員に就任する予定です。

長年にわたり、先生方、職員の皆様、そして学生諸君から学んだことは計り知れないほど多く、心から御礼申し上げます。

陶磁器研究室 教授

長谷川 直人 (はせがわ なおと)



いつの間にか月日が過ぎ、もう退職となってしまいました。30年以上の勤続になるようです。振り返ってみれば、もっとできたはずなのにと反省しきりです。まあどうにか多くの方々のお助けのおかげで勤務を続けて来ることができました。

思い返されることは、もちろん多くの素晴らしい学生たちとの出会いです。一緒に学ぶ中で多くのことを教わり、気づかせてもらいました。そしてそれだけでなく、テーマ演習「つちのいえ」にかかわらせてもらったことや、総合基

礎の授業をつうじて他分野の多くの先生がたから学ばせていただいたことも大きな財産であると感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも、気持ちを新たに次なる学びの場に向かいたいと思います。

デザイン科 (環境デザイン) 教授

藤本 英子 (ふじもと ひでこ)



あと数ヶ月になった大学での生活を前に、22年間の回想をする時、辛い思い出も蘇る。今となってはそれも豊かな私の人生の1ページだったと噛み締める。社会で活躍している卒業生に会い、そんな思い出も吹っ飛ぶことが多い。ちょうど今熊野2年、杏掛2年で卒業した私には、今回の移転は戻る感覚がある。昔終電を目指して駆け抜けた道を、今は歩み通勤する。この間、激しく変わってきたのは、社会と私自身かもしれない。新たな大学校舎や、京都駅、街並みも変わったが、京都タワー、鴨川、

東山に向かったの上り坂の地形。変わらぬ大きな京都の骨組みが、永年の私の人生を受け入れてくれる優しさを持ち合わせている。

暮らす街が、その人の心に大きく影響する、それを実感して永年「景観」というデザインの世界を業としてきた。これからもこの分野でさらに社会に貢献できればと思う。愛する京都市立芸術大学の仲間として、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

芸大祭 2023 「象の店」顛末記

副会長 小山 格平

芸大祭で同窓会「象の店」を担当しました76年デザイン卒の小山です。

2023年11月4日～6日の3日間新キャンパスで芸大祭が行われ同窓会模擬店「象の店」今年も出店いたしました。京都駅から東へ5分程のところに京都芸大が移転し初めての芸大祭です。芸大祭は10月1日の移転後直ぐの開催で準備期間も無く、開催まで多々問題があったと思います。「象の店」は当初居酒屋とカフェを予定し77号の会報でもアルコール飲料販売のアナウンスを行っております。しかし移転後初めての芸大祭でもあり地域の人達にも受け入れて頂く為に芸大祭実行委員会も手探りの状況でした。実行委員会のメンバーが直前で代わるなどの思わぬ出来事もあり、飲酒に関しても行うかどうか議論を重ねましたが残念ながら中止となりました。居酒屋を期待されていた卒業生には大変申し訳ないと思っております。居酒屋「象の店」からティーカフェに変更を余儀なくされました。新キャンパスは塀やゲートも無く個々の建物以外、学内はほぼ公道であり芸大通りに開店した模擬店は期間中毎日テントの骨組み以外は全て撤去するなど、杳掛での芸大祭とは全く違った運営となりました。移転は大学にとっては大事業であり、芸大祭についての検

討も間際まで決まらない様でした。模擬店の設営場所や諸々の取り決めも中々決まらず様々な事が一週間前に決る様な状況でしたが、このような困難な状況の中でよく開催出来たと思います。芸大祭の運営方針が二転三転、紆余曲折そして学生さん達は七転八倒の苦しみの中よく頑張って開催に漕ぎ着けました。

ティーカフェ「象の店」に関しましては昨年も同様の運営しておりましたので問題なく営業できました。バタバタな準備の中、初期費用(食材や食器など)が増加しましたが、昨年に比較して売上は増加し当初の予算内(30万円)に抑える事が出来ました。詳しい決算報告は24年度の役員総会で報告されると思います。多くの卒業生・職員の皆さまにご来店いただき本当にありがとうございました。模擬店の本来目的である同窓生の親睦の場になったと思います。また、3日間にわたりお手伝い頂きました同窓会役員の皆様にも感謝申し上げます。

新学舎での初めての芸大祭、大変なことも沢山ありましたが無事に終えることで本当に良かったと思っております。来年度以降も芸大祭に模擬店「象の店」を続けたいと考えております。居酒屋になるかティーカフェになるか分かりませんが、今後とも「象の店」よろしくお願い申し上げます。



芸大祭 2023

『京都市立芸大同窓会美術公開講座』

開催報告

副会長 阿部 緑

本学キャンパス移転を機に、同窓会象の会では芸大祭関連行事として『京都市立芸大美術公開講座』を11月4日(土)、5日(日)の2日間、C棟1階の講義室にて午前・午後各2講座ずつ、計4講座(右記)を開催しました。本講座は同窓会有志の協力を得て「開かれた大学」としての役割と芸術・文化の発展と活性化をめざして行われ、今後も継続的な開催を予定しています。

当日は、各講師の先生方からは京都芸大における日本画、洋画、彫刻、漆工に関する歴代の専門教育と現代及び今後についてなど、また、作家としての姿勢や長年の作家活動、研究について、パワーポイント、映像、実物を交え、大変貴重で充実した内容の講義を行っていただきました。本講座には美術・工芸に興味のある市民の方や学内の先生方、学生の皆さんが聴講され、すべての講座に参加された方々もおられました。

本講座は今回が初めての試みであり、講師の先生方とやり取りを重ね、試行錯誤をしながらの開催でした。今後、より多くの方々に聴講していただけるように開催日時・会場、講座内容、そして広報について、さらに検討を重ねていく所存です。また、聴講された皆様から頂きました感想やご意見、ご要望を参考に、今回の反省点も含め、より魅力的な講座、そしてワークショップなど、さまざまな可能性を考え同窓会活動の幅を広げていきたいと考えています。

今回の講座を開催するにあたり、講師をお引き受け下さった先生方、ご協力いただきました同窓会有志、芸大事務局、芸大祭実行委員長の皆様に、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

【美術公開講座】

11月4日(土) 第一部「近現代の日本画画壇と京都市立芸術大学の日本画教育」

講師：松尾 芳樹

第二部「現代の抽象彫刻と京都市立芸術大学の教育——辻晋堂と堀内正和二人の功績——」

講師：竹内 三雄

11月5日(日) 第一部「うるし工芸 温故知新」

講師：三木 表延斎(三木 久延)

第二部「京都洋画壇の成立と展開」

講師：建島 哲



講師：松尾 芳樹



講師：竹内 三雄



講師：三木 表延斎(三木 久延)



講師：建島 哲

芸大祭 2023

新キャンパス見学ツアーの開催

学内代表幹事 安井 友幸

新キャンパスでの初めての芸大祭、今回は芸大祭エリアとして開放されている一番京都駅に近いエリア(C地区)のC、D棟のみ限定で見学ツアーを開催しました。

出発はその日に行われている美術公開講座の終了後の15時15分から、新旧の卒業生と一般の方、旧職員の皆さんも含め、定員の30名の参加がありました。各専攻の先生方にもご協力いただき、各施設の概要を説明してもらいました。

C棟1階北側のギャラリーアクアから始まりD棟1階東側の油画的壁画教室、D棟3階に上がり日本画教室、その上の油画、6階の渡り廊下を通り、C棟の博士ラボ、4階に下り畳敷き教室(L12)、保存修復、総合芸術学、上階から3階の図書館を臨み、階段教室(L10)を通り、最後は構想設計のスタジオを見学して解散しました。全行程約1時間。

アトリエなどは基本的には杳掛時代と変わらないですが、各専攻の意見を取り込んだ専門的な施設は現代的な建築空間と相まって、皆さん大変興味深く見学されておられました。

D棟の屋上階からは遠くに清水寺など市内を見渡せて、見晴らしが良く気持ち良い空間になっていました。

今回の見学場所は芸大の一部でしかないで、その他の施設に関しては是非作品展期間に見に来ていただきたいと思っています。



D棟 屋上階



階段教室(L10)



構想設計スタジオ



畳敷き教室(L12)

象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

くろかわ がく
黒川 岳

2018年（平30）彫刻専攻 修了

「風に煽られながら」

今、私の体は非常に強い風に吹かれています。

ここ連日、風に煽られっぱなしです。



フランスの片田舎からスペインを目指して歩き続ける日々。どうやら冬直前に行くことではなかったようです。自分の身体に不釣り合いなサイズのバックパックがさらに多くの風を受け、私はほんの少しずつしか前に進むことができません。眼に映る景色はもの凄くゆっくりと動き、草木は踊り狂い、色々な匂いが体の中に飛び込んできます。

思えば、こんなにゆっくりと道を進むのは初めてではなかろうか？家や人の気配すらない、見渡す限り自然のただっ広い場所を、こんなにも時間をかけて味わうことができるものなのか。

いっそ極限までゆっくり進んでみたらどうなるのかなどと考えますが、どこか風を凌げる場所まで辿り着かないと体が持ちません。止まると一気に凍えてしまうので、僅かでも歩みを止めるわけにはいきません。這うようにして進んでいくと、ようやく人のいる村に辿り着きます…。

さて、ここまで来た理由を自分のなかではっきりと言葉にできないまま、勘を頼りに進んできてしまいました。にもか



わらず、あろうことか来月には南米の風にも煽られに行こうとしています！もっともっと、色々な風に触れてみたいです。

沓掛校舎に吹く風、大好きでした。

崇仁校舎にはどんな風が吹くでしょうか。またいつか味わいに行ってみようと思います。

まきの よしみ
牧野 良美

1972年（昭47）日本画科専攻卒業

「今の暮らし」

奈良県香芝市に住んでから38年になります。

春には、山のあちこちに、桜・山つつじが咲き、季節の移ろいを感じさせてくれます。畑も残っていて、歩いては立ち止まり、気になると急いでスケッチ道具を取りに帰りました。

えんどう・ねぎぼうず・とうもろこし・びわ・・・

書きながら絵にしていなかった事に気づきました。

絵の描きははじめは、友人にケシ・牡丹のスケッチにさそわれ、早朝から日没まで対象と向き合い、スケッチの楽しさを学んだ頃です。



今は8人のグループ展(颯々展)に参加のため制作中です。花中心に描いていますが、その花に出会えたよろこびと、日々、姿の変わる花の“キレイ”と思った瞬間を描きとめてみたいと思います。好きな対象を追いつつ、“出来る事”を考えながら描いています。

身体のために、月3回、先生1人、生徒3人のストレッチヨガに行っています。バリバリの身体に悲鳴を上げながらのレッスンですが、とてもいい気分転換になっています。

20年位前から、“小さな絵”を描く教室をしています。花を描く事が多いです。人との出会いが楽しく、続いています。

最後になりましたが、これまで、先生・先輩・友人に恵まれ、絵を続ける事ができました。感謝の気持ちでいっぱいです。



次号に紹介される方は、
さい か みちひろ
雑賀 通浩さん
2014年（平26）彫刻専攻 修了

次号に紹介される方は、
おかざき ひろし
岡崎 洋さん
1972年（昭47）日本画専攻卒業

学内消息（資料）

（2023年1月～12月）

1月14日～1月15日	2023年度大学入学共通テスト
2月8日～2月12日	2022年度作品展（大学構内・京都市京セラ美術館）
2月25日～2月26日	2023年度美術学部入学試験
3月3日～3月4日	2023年度大学院美術研究科博士（後期）課程入学試験
3月7日	2023年度美術学部・大学院美術研究科博士（後期）課程合格発表
3月23日	2022年度卒業式・学位記授与式
3月31日	森口サイモン教授、三木博教授、児玉靖枝特任教授、永守伸年講師退任
4月1日	翟建群講師、唐仁原希講師、谷川嘉浩講師、村上裕美講師、谷本天志特任教授着任
4月10日	2023年度入学式
4月22日～6月25日	Slow Culture #kogeï（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
6月25日	美術学部オンライン進学説明会
7月1日	創立記念日
8月19日～9月18日	still moving final: うつしのまなざし（第1期）（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
9月1日～11月27日	2024年度大学院美術研究科修士課程入学試験
10月1日	大学移転オープニングセレモニー開催
10月1日	戸澤幸作講師、土井亘特任講師着任
10月3日～11月12日	still moving final: うつしのまなざし（第2期）（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）
11月22日～11月29日	京都駅ビル芸術祭 2023 ～中継地点 from 京芸～（JR 京都駅）
11月4日	美術学部個別相談会
11月4日～11月6日	京都市立芸術大学芸大祭 2023
11月22日～11月29日	京都駅ビル芸術祭 2023（JR 京都駅）
12月7日	2024年度大学院美術研究科修士課程合格発表
12月11日～12月15日	第35回留学生展
12月16日～	久門剛史「Dear Future Person,」（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）

会員展覧会

（2023年1月～12月） ■同窓会にお知らせいただいた展覧会情報です。

会員作品展			
3/7～12	森下希和子作品展 -豊穣の光-	GALLERY MARONIE	①
4/1～30	「虹を見た!」吉田孝光・油彩画展	るーぶる愛知川	②
4/1～30	Botanical Layer	ミント神戸 2階特設会場	
5/13～24	小曾根環展 -botanical-	ギャラリー島田	③
5/16～21	楠瀬和子日本画展	ギャラリーCreate洛	④
5/23～28	森田郁子展「淡海山川」	ギャラリー恵風	⑤
6/13～18	木村正恒・油画・素描展「京都好日」	ギャラリーヒルゲート	⑥
8/29～9/17	新田恭子個展「ふわふわウールで網!」	森の小枝ギャラリー	⑦
8/29～9/18	山田俊行展「没頭絵画／幻」	滋賀県立美術館ポップアップ・ギャラリー	⑧
9/6～11	大垣早代子洋画展	岩田屋三越美術画廊	
9/16～11/5	重岡良子花鳥画展-伝統の中の日本画から明日へ-	大阪くらしの今昔館	⑨
10/3～22	黒川彰夫展	ギャラリーなかむら	⑩
10/13～26	映画「華の季節」(監督・脚本 片岡れいこ)	京都シネマ	
10/14～27		大阪シネ・ヌーヴォ	
10/16～28	河合美和展	ギャラリー白3	⑪
10/24～29	高谷光雄展	ギャラリー中井	⑫
10/30～11/11	小曾根環展 -flowering-	ギャラリー白kuro	⑬



①



②



③

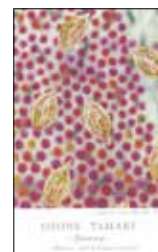
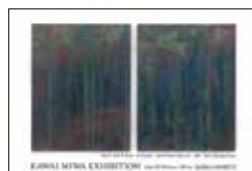


④

11/11 ~ 18	上住雅恵個展-Air,Paris-	創英ギャラリー	14
11/13 ~ 18	長谷川睦 個展「雲の群れ、海の樹」	ギャラリー白3	
11/23 ~ 28	田中佳洋「山と花の小品展」	アンティークベルギャラリー	
11/21 ~ 26	山中 彩 個展	GALLERY MARONIE	15
12/9 ~ 20	「井上よう子展 -聞こえぬ声 見つめる光 そして青-」	ギャラリー島田	
2024/1/5 ~ 14	上野 真知子 個展	楽空間 祇をん 小西	16

会員グループ展

3/3 ~ 20	Drawing in my room 3 (江上里絵子、小野潤一、西嶋みゆき、野田佳奈子 他)	GAMOYON Gallery	17
3/7 ~ 12	第47回グッドアート展(吉田孝光 他)	京都市京セラ美術館	18
3/20 ~ 26	第37回象展 京都市立芸術大学 美術学部 同窓会展	ギャラリーくぼた	19
3/21 ~ 26	第23回「丸池'69展」(池田三郎、鎌田隆行、木村順子、高寄千歳 他)	ギャラリー吉象堂	20
4/14 ~ 23	小曽根 環・鞍井 綾音 2人展	アートO美空間 SAGA	21
5/16 ~ 21	2023滋賀双線美術展(京都市立芸術大学美術教育研究会滋賀支部有志)	滋賀県立美術館 ギャラリー	22
6/3 ~ 11	第12回12人12色展(京都市立芸術大学1978年卒業生有志)	知恩院和順会館 ギャラリー和順	23
6/6 ~ 11	17seasons[17人の現在](國松 万琴 他)	ギャラリーヒルゲート	
6/13 ~ 18	Breeze展(赤松玉女、荒牧陽一郎、井上よう子、奥田輝芳、日下部直起)	ギャラリーa	
6/20 ~ 25	第34回 花と土と人展(京都市立芸術大学卒業生東海支部有志)	電気文化会館 西ギャラリー	
6/27 ~ 7/2	G e展(井上 よう子 他)	京都市京セラ美術館	
8/28 ~ 9/9	PAINTERLINESS 2023(河合美和、善住芳江、岸本芳枝、真木智子、渡辺信明)	ギャラリー白、ギャラリー白3、ギャラリー白kuro	24
9/13 ~ 18	第3回 OSAKA ART FES HANSHIN(赤松玉女、善住芳江、真木智子、山内亮)	阪神梅田本店 8階催事場	25
9/19~24	京都双線美術展(京都市立芸術大学美術教育研究会京都支部有志)	ギャラリー 吉象堂	
10/3 ~ 9	第1回 京美・丸池サロン展(京都市立美大・芸大出身の18名)	アートステージ567	26
10/26 ~ 11/5	鶴田 憲次・門川 昭子 二人展	ギャラリー恵風	27



- 本号会報は、会則どおり会費を納めていただいている同窓生(終身会費又は年会費を過去3年間に納入された方)に送っています。次号は全員配布の予定です。
- 同窓生の個展やグループ展の案内状を受領しています。出来るだけHPに掲載するよう努めていますが、時間的に間に合わない、送られてきた案内状の折り目があって掲載に向かない場合があります。案内状は出来ればデータで送っていただけると良いと思います。また、公募展や企画展などに出品された案内状を送ってこられる場合がありますが、これらはHP掲載対象外ですのでご了承ください。
- 同窓会象の会の事務が移転と共にスタートしました。
開本恭子さんの後任、浅井真奈美さん(1990日本画卒)が火・金曜日(祝日は休み)の10時頃から17時まで勤務しています。当面の間、野崎代表幹事も同じ日程で在室しています。それ以外の日も電話・メールは機能していますので連絡可能です。

次の場合は、事務局までご連絡ください**● 同窓会後援名義使用**

同窓会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援を希望される場合。

● 展覧会の案内、情報の掲載

同窓会に送っていただいた展覧会の案内や情報はホームページや会報に掲載しています。ホームページへ掲載を希望される場合は展覧会内容、DMデータなどをメールでお送りください。

● 満80歳以上の会費免除

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で会費免除を希望される場合。

● 氏名、住所、電話、FAXなどの変更時

お忘れになると会報など送付物のお届け、連絡が出来なくなりますので、郵送、FAX、メール、または同窓会ホームページの住所変更フォームからお知らせください。

「2024年度役員総会」(予定)

次の日程で役員総会開催を予定しています。同窓会役員幹事の方々には、6月にご案内の連絡をお届けしますのでご予定をお願いします。

2024年(令) 7月6日(土)午後3時～
「からすま京都ホテル」(烏丸四条下る)

編集後記

2024年、甲辰の年となりました。今号がお手元に届く頃には立春になっているかも知れませんが、本年も美術学部同窓会「象の会」をよろしくお願い申し上げます。辰年は縁起の良い干支で、十二支の中で唯一存在しない動物ですが、物事を良い方向に導くと言われていました。京都の名利の天井絵、障壁画に幾多の龍が描かれているのは、「瑞獣」と称され特別な時に現れて教えを注ぐと言われていたそうです。

- 本学舎から鴨川を渡ってすぐの所に瀧尾神社があり、拝殿の天井には全長8mの珍しい龍の木彫があります。蛤御門の変で消失した祇園祭の大船鉦ですが、150年目の2014年に復興され、2016年には鉦頭に瀧尾龍をモデルにした木彫龍頭が再現されました。そして昨年夏の巡行には金箔を施された往年の姿に戻りました。大船鉦の格天井には前同窓会長の上村淳之先生が花鳥画を奉納されました、今年の祇園祭では是非ご覧いただきたいと思います。
- 昨年10月には念願の芸大が移転、真新しい校舎で新年を迎えられた在学生や教職員の方々にとって格別の感でしょう。京都駅から徒歩数分という利便性と、どこに行くにもアクセスの良さは杏掛とは比べようがありません。学外の方にも利用しやすい開かれた大学となっています。ギャラリー@KCUA(ギャラリーアクア)の展覧会、芸術資料館、伊藤記念図書館、コンサートホールなど芸術を身近に楽しんでもらえる絶好の立地です。

- いまの京都市の一番の問題は、コロナ後のオーバーツーリズムです。これまでの自粛から解放され、多くの観光客が国内外から京都を訪れます。2023年10月の宿泊施設はコロナ前の83%まで回復してきました。清水寺や嵐山界隈、伏見稲荷など繁華街に見紛うほどの雑踏です。京都駅や東大路通りのバス停には長い行列ができ、数台のバスを見送らなければ乗れないこともあります。
- 「日本に京都があってよかった」は2007年制作の観光ポスターのキャッチコピーです。京都は観光都市を標榜してきましたが、ここに来て新たな施策が必要となっています。京都市観光MICEでは主要な観光地の様子をリアルタイム動画で配信して混雑の分散化を図り、早朝や夜への時間差観光も推奨していますが、いずれも即効性につながっていません。市民の生活環境は変化を余儀なくされ、通院や買い物にも不便を強いられています。京都市民憲章にはこのように謳われています「わたしたち京都市民は旅行者をあたたかくむかえましょう。」しばらくは我慢が続きます。
- 2024年問題が現実となってきました、タクシーやバス以上に流通関係のドライバー不足です。再配達の有料化や消費者物価の押し上げの可能性が言われています。ともあれ同窓会諸氏には今年一年のご健勝をお祈り申し上げます。今号に寄稿いただきました皆さま誠に有難うございました。(編集委員長:出井豊二)